


気候変動適応を通じた フェーズフリーな防災共助体制の構築に向けた取組 事例集

2026年3月

環境省 地球環境局 総務課 気候変動科学・適応室



本事例集について

■はじめに

気候変動によって気象災害が頻発化・激甚化することが懸念されており、過去に起こった大規模災害等の経験・教訓を踏まえて、災害によって引き起こされる被害を的確に想定するとともに、被害を最小化するためのあらゆる対策を平時から行う「事前防災」を徹底的に推進することが必要とされています。一方で、地域防災力の基盤として地域コミュニティの持続可能性の確保が課題となっています。

本事例集では、全国の自治体や地域コミュニティの皆様の参考となるよう、将来起こりうる気象災害について、気候変動による災害の頻発化・激甚化を学び、NbS(Nature-based-Solution)を取り入れた防災対策等の取り組みについて地域で実践することで、平時の協力連携体制を活用したフェーズフリーな防災共助体制の構築につながる取組事例を紹介します。



■モデル事業について

本事例集では、「令和7年度気候変動適応を通じたフェーズフリーな防災共助体制整備業務」において、全国5か所の地域で地域で活動する取組団体が開催する取組や実践の場となるワークショップの支援を行いました。

ワークショップでは、地域の気候変動適応や地域の防災共助体制につながる取組を題材とし、参加者が実際に手を動かしたり野外学習を取り入れ、楽しみながら参加できるプログラムを実施しました。また、今後も関係性が続き、フェーズフリーな防災共助体制につながるような仕掛けも取り入れています。

ぜひ皆様の地域の取組の参考としてください！

目次

1. 遊水地の機能をARで体験！～あさはた緑地をハブとした防災共助体制の構築に向けて～
【グリーンパークあさはた(静岡県静岡市)】 ……P3
2. 大人と子供でつくる雨庭 ～舞の里小学校AMENIWAプロジェクト2025～
【舞の里小学校(福岡県古賀市)】【舞の里小学校・九州大学大学院・福岡大学大学院・株式会社Takebayashi Landscape Architects
・福岡グリーンインフラ研究会・ぐりんぐりん古賀・ブルードロップ】(福岡県古賀市) ……P5
3. 地域みんなで考え、共創する ～できることから始める気候変動対策～
【富里市気候変動対策プラットフォーム(千葉県富里市)】 ……P7
4. 気象災害を知り、災害時の行動を考える ～フェーズフリーな暮らしと防災大作戦～
【OKAYAMAお片づけチームmomo(岡山県岡山市)】 ……P9
5. 地元高校生と考える防災アクション ～災害共助コミュニティのために～
【国際学生ボランティア団体(IVUSA)(静岡県牧之原市)】 ……P11

本事例集の見方

1ページ目	<ul style="list-style-type: none">・取組団体の基本情報・実施地域の気象災害リスク・モデル事業で実施したワークショップの内容・取組のポイント
2ページ目	<ul style="list-style-type: none">・ワークショップの様子・フェーズフリーな防災共助体制構築に向けた今後の展望

各アイコンの種類

ターゲット

気象災害の種類

取組の分類

1. 遊水地の機能をARで体験！～あさはた緑地をハブとした防災共助体制の構築に向けて～【グリーンパークあさはた（静岡県静岡市）】

基本情報

■団体の基本情報

- ・(一社)グリーンパークあさはたは、あさはた緑地の指定管理者
- ・あさはた緑地は2021年に麻機遊水地の中に開園した公園で、平時は遊具や原っぱなどの利用が盛んで、有事は遊水地として機能
- ・ミズアオイ、オニバス等の希少な植物が生育しており、地域の方とともに保全活動等を実施
- ・指定管理の活動目的はあさはた緑地の活用と防災機能の普及啓発



過去の気象災害・気象災害リスク

- ・昭和49年7月7日～8日の七夕豪雨では、浸水家屋26千戸以上、多数の犠牲者を出す等の甚大な被害が発生。
- ⇒被害を受けて昭和50年から麻機地域の特性(平坦で水が溜まりやすい)を生かし、麻機遊水地の整備が始まった。
- ・令和4年台風15号でも記録的豪雨により、清水区を中心に床上浸水の被害が発生したが、麻機遊水地も遊水機能を発揮し、被害軽減に貢献！



大雨時巴川から遊水地へ越流する様子

取組の内容

福祉施設や学校の職員

洪水

防災教育、平時と災害時のつながり構築

■背景・目的

- ・公園としての地域利用や自然観察などは盛んだが、遊水機能についての防災側面の普及啓発には課題がある。
- ・本事業をとおして地域の防災ハブとなり、平時からの地域力をあげたい。
- ⇒近隣学校及び施設の職員の方と、防災・減災に向けた課題を共有し、互いに協力できる点を模索するとともに、今後の防災共助体制を考えるきっかけとする。

■取組内容

- ・あさはた緑地内でウォークラリーを実施
 - ✓ 遊水機能が発揮された様子のAR体験
 - ✓ 生物や普段の活動等の解説
- ・専門家からの話題提供
 - ✓ 麻機地域の生物多様性
 - ✓ 気候変動による影響と適応策
- ・参加者による意見交換



ミズアオイ



オニバス

👉ポイント

災害・防災はネガティブな印象を持たれることも…

⇒遊水地ならではの希少な生物がいることもご紹介し、自然の災いと恵みは表裏一体であることが伝わるように工夫！

1. 遊水地の機能をARで体験！～あさはた緑地をハブとした防災共助体制の構築に向けて～【グリーンパークあさはた(静岡県静岡市)】

ワークショップの様子

■遊水機能のAR体験、生物・活動等の解説

あさはた緑地内でウォークラリーを実施！

- ✓ スマホやタブレットで遊水機能発揮時の浸水状況をARで確認
- ✓ ARだけでなく生物多様性や平時の活動の様子などの写真・解説も確認

■専門家による話題提供

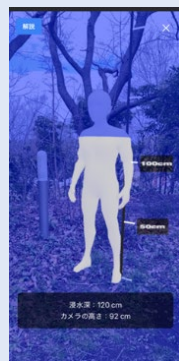
専門家からの話題提供を実施！

- ✓ 全国的な気候変動リスクや適応策及び、東海地方のリスクについて(環境省)
- ✓ 麻機遊水地の特徴とあさはた緑地における生物多様性保全について(国立環境研究所 田和氏)

■意見交換

以下の2つのテーマで話し合い、参加者は活発な意見交換を実施！

- ✓ あさはた緑地に対する認識の共有
- ✓ あさはた緑地の活用に向けたニーズの共有、地域の団結力・防災力の向上に向けた情報共有



今後の防災共助体制構築に向けて

■具体的な課題や緑地活用の意見も

・学校や施設がかかえる防災についての課題感を共有でき、あさはた緑地の今後の具体的な活用策についても意見が挙がった！

■今回のワークショップがキックオフに

・参加者からも継続的な連携、話し合う場の設置を望む意見があった。
⇒今回のワークショップをきっかけに継続的な地域連携への期待が高まった！

参加者の声

・生徒が課題解決に貢献し、外部発信できるような活動で連携したい
・地域防災の共助体制を構築していきたい



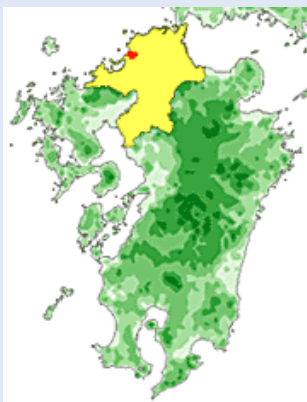
2. 大人と子どもでつくる雨庭～舞の里小学校AMENIWAプロジェクト2025～

【舞の里小学校・九州大学大学院・福岡大学大学院・株式会社Takebayashi Landscape Architects・福岡グリーンインフラ研究会・ぐりんぐりん古賀・ブルードロップ】(福岡県古賀市)

基本情報

■団体の基本情報

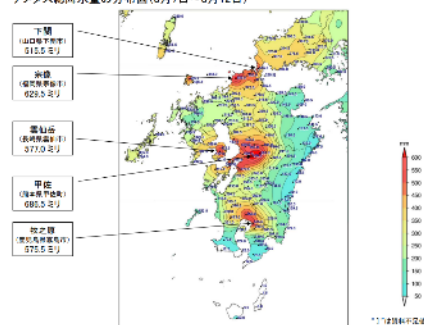
- 舞の里小学校は、福岡県古賀市の北部に位置し、台地上にある住宅街となっているため、市の指定避難所(洪水、崖崩れ、土石流及び地滑り、高潮、地震、津波に対応)および指定緊急避難場所である。
- 九州大学の流域システム工学研究室では、九州北部地域における多自然川づくりなど、小学校と連携した取組を数多く実施している。



過去の気象災害・気象災害リスク

- 令和7年8月には北部九州で線状降水帯が発生。
- 8月10日には宗像市で日降水量308mmを記録。

アメダス総降水量の分布図(8月7日～8月12日)



出典:令和7年8月13日 福岡管区気象台

- 古賀市は丘陵地台地が多いという自然的特性と市街地・住宅地が多い社会的特性を有しており、大根川水系大根川や中川水系中川の洪水リスクや、住宅地の内水氾濫リスクがある

取組の内容

地域の小学生

洪水(内水氾濫)

防災教育

■背景

- 舞の里小学校の5年生の総合学習では、構内のビオトープづくりをするなど環境教育に力をいれている。
- 2024ふくおか水もり自慢!で、令和6年度の5年生がビオトープづくりを発表した際に、九州産業大学の雨庭に出会う。
- 令和7年度の5年生は、先輩から引き継いだビオトープの管理を行うと同時に、雨庭づくりに着手した。

■取組内容

- 舞の里小学校の敷地内に雨庭を造成
 - 舞の里小学校5年生の総合学習において、子どもたちが雨庭を学び、雨庭のコンセプトを検討し、中庭の浸透試験や植栽および設計を検討した。
 - 九州大学やNPO法人の大人たちが子どもたちが設計した雨庭を実現する手伝いをした。
- 専門家のサポート
 - 【雨水教育の実践・雨庭の設計・施工にあたっての全体的な監修および詳細設計】
 - 九州大学工学研究院 環境社会部門 林准教授・高田助教
 - 福岡大学大学院 工学研究科 田浦准教授
 - 株式会社 Takebayashi Landscape Architects 竹林氏
 - 【雨庭に使う植栽についての助言と施工の実践支援】
 - 古賀市市民環境会議「ぐりんぐりん古賀」 中屋氏・宿理氏
 - ブルードロップ 中村氏
 - 福岡グリーンインフラ研究会

ポイント

子どもたちは、雨庭の効果について、自分たちで調べ、自分たちで雨庭を作る目的を考えた!

【舞の里の防災のシンボル】

- *生き物(命)があふれる場所
- *防災の機能がはたらく場所
- *楽しく学べる憩いの場所

2. 大人と子どもでつくる雨庭～舞の里小学校AMENIWAプロジェクト2025～

【舞の里小学校・九州大学大学院・福岡大学大学院・株式会社Takebayashi Landscape Architects・福岡グリーンインフラ研究会・ぐりんぐりん古賀・ブルードロップ】(福岡県古賀市)

ワークショップの様子

■子どもたちがつくりたいAMENIWAの提案

設備チーム
→設計士チーム



植物チーム
→生態系チーム



浸透試験チーム
→土壌改良チーム



大人たちのサポート

地域の植物について教えてもらう



浸透試験の方法を教えてもらう



■雨庭のお披露目会

植栽の様子



造成した雨庭



今後の防災共助体制構築に向けて

■後輩に引継ぎ、雨庭を育てる

・次の5年生へ雨庭の管理を引き継ぐとともに、『舞の里の防災のシンボル』にする夢をつなぎ、さらに魅力的で持続可能な雨庭に育てていく！

■地域の方々に伝える

・子どもたちの夢を発信していくことで、地域の大人たちも巻き込み取り組んでいく。
・小学校は指定避難所および指定緊急避難場所に指定されているため、地域の方々に雨庭を通して防災について伝えていく。

【舞の里小学校5年生の声】

・全校に雨庭を広めて防災意識を高めていきたい。
・場所に適している植物や生き物を増やすための植物の選び方を学んだ
・色んな人が来ることを考えて考えた設計が再現されていてびっくりした！



3. 地域みんなで考え、共創する ～できることから始める気候変動対策～ 【富里市気候変動対策プラットフォーム(千葉県富里市)】

基本情報

- ・富里市は2025年3月に「富里市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定し、その重点プロジェクトとして2026年5月に「富里市気候変動対策プラットフォーム」を設立した。
- ・国立環境研究所、市内の企業・団体・市民が参加し、年2回の会議に加え、メンバーでの自主勉強会を開催している。
- ・気候変動の緩和と適応の両方を、地域の課題解決とともに検討し、実践、普及啓発する場となっている。



第1回全体会議の様子
(富里市提供)



市内のグリーンインフラ(谷津)の整備

出典:富里市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)概要版

過去の気象災害・気象災害リスク

- ・令和元年10月の千葉県豪雨では、印旛沼の水位がこれまでの最高水位まで上昇した結果、堤防からの漏水被害や流入する河川が氾濫し、周辺での浸水被害が生じた。
- ・令和元年台風第15号では、富里市で最大瞬間風速が最大値を観測し、市内のほぼ全域にわたる大規模停電や建物や農作物などの被害を引き起こした。
- ・この他にも、台風・大雨の被害はこれまでに何度も経験しており、リスクが高い。



氾濫した鹿島川(毎日新聞)



富里市内で発生したがけ崩れ
令和元年10月の千葉県豪雨による被害

取組の概要

行政・企業・団体・市民

洪水、土砂災害

平時と災害時の
つながり構築

■背景・目的

- ・本プラットフォームは、多様な地域の気候変動対策事業の創出・協働・連携を目指して設立された。
- ・プラットフォーム活動としては以下が想定されている。
- ✓ 地域や事業活動における課題に対して、気候変動対策を手段とした解決を図るための協議
- ✓ 事業創出におけるビジネスマッチング
- ✓ 気候変動対策についての理解・普及展開を目的とした勉強会や研修会の開催

■取組内容

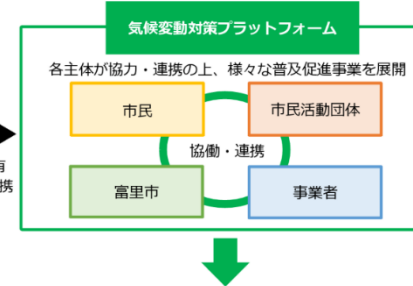
- ・気候変動対策プラットフォーム会議の開催
- ・プラットフォームメンバーによる自主的な勉強会
- ・気候変動対策に係る普及啓発

富里市地球温暖化対策
実行計画推進委員会
(庁内組織)

富里市が抱える
様々な地域課題
防災/まちづくり/
産業/福祉/教育 等

地域課題の共有
問題解決への連携

取組イメージ



地域課題解決にもつながる気候変動対策事業の推進

出典:富里市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)概要版

👉ポイント

地域や事業活動の課題となっていることに対して、気候変動対策を手段として解決を図る取組を産官学民で進めていく。

3. 地域みんなで考え、共創する ～できることから始める気候変動対策～ 【富里市気候変動対策プラットフォーム(千葉県富里市)】

取組の詳細

プラットフォーム全体会議

■第1回全体会議(2025.10.21)

- ✓ 地域課題の認識共有とやってみたいこと・できるとの意見交換

□第1回勉強会(2025.12.05)

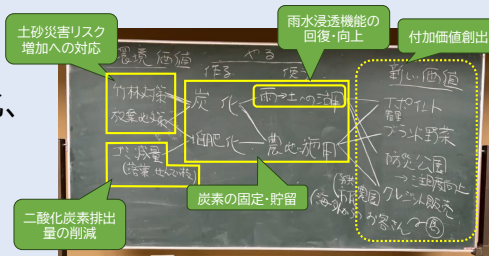
- ✓ やってみたいこと・できるとの具体化、アイデア出し

□第2回勉強会(2026.01.22)

- ✓ 第1回勉強会のアイデアからの取組紹介
- ✓ 地域で取り組める気候変動対応策を考えるワークショップの企画検討

■第2回全体会議(2026.03.26)

- ✓ 水の流れを見ながら私たちができる気候変動対策を考える
- 富里工業団地公園～八ツ堀のしみず谷津～高崎川を歩いて水の流れを考える
- 私たちができる気候変動対策の意見交換



第2回勉強会でのアイデアより

●気候変動対策に係る普及啓発素材の作成(2026.03.13)

- ✓ 自然共生サイトに登録されている「八ツ堀のしみず谷津」での活動を写真・動画で記録
- ✓ 気候変動対策につながる竹林整備、バイオ炭づくりを紹介する素材として今後活用予定



竹林整備(左)と竹からのバイオ炭づくり(右)の様子

今後の防災共助体制構築に向けて

■気候変動適応と防災のつながり意識

気候変動適応を考えることは、自然災害への対応を考えることにもつながる。プラットフォームをきっかけに、防災意識の向上にもつながっていくことが期待されている。

■あらゆる主体の分野横断的な連携

気候変動と防災を考えるうえでは、市民との間だけでなく、行政内も分野横断的な連携を取ることが必要不可欠。

プラットフォームメンバーの声
・生き物のための竹林整備が、気候変動対策にもなると知った
・プラットフォームメンバーとのつながりがうれしい



4. 気象災害を知り、災害時の行動を考える ～フェーズフリーな暮らしと防災大作戦～【OKAYAMAお片づけチームmomo(岡山県岡山市)】

基本情報

■団体の基本情報

- 「OKAYAMAお片づけチームmomo」は、主に岡山県内で、片づけと防災の知識を広める活動に取り組んでいる
- 思考の整理から始める「ライフオーガナイズ」の片づけ術で、暮らしの仕組みづくりをサポートするプロフェッショナルチーム
- 普段の「お片づけ」が、災害時の被害やリスクの低減につながるというコンセプトで、防災サークル、講演、ワークショップ、ラジオ番組等、幅広く活動



過去の気象災害・気象災害リスク

- 平成30年7月の西日本豪雨では、岡山県全域で記録的な雨量が観測され、県南部で堤防の決壊等による甚大な浸水被害が生じた。
- 岡山市内では、旭川、砂川が越水し、浸水被害が発生した。
- 倉敷市真備町では、小田川が破堤し、大規模な浸水被害が発生した。多くの住民が取り残され、屋根などから助けを求める人が相次いだ。



屋根近くまで冠水した倉敷市真備地区(山陽新聞)

「岡山は災害が少ない」という認識がこの災害で過去のものとなった。今後、豪雨による河川氾濫のリスク、南海トラフ地震、津波・高潮被害のリスクが想定されている。

取組の内容

地域の小学生・子育て世代

洪水

防災教育・平時と災害時のつながり構築

■背景・目的

- 岡山県は、温暖な気候で比較的降水量も少ないため、県民の災害に対する危機感が薄い傾向にある
- 平成30年の西日本豪雨を受け、今後いつ、どこで被災するかわからない不確実な時代に備え、日常の延長線上でできる「無理のない防災＝フェーズフリー」の考え方を広め、家庭や地域における「自助の力」を育む

■取組内容

- 専門家からの話題提供
 - ✓ 天気予報、気候変動、気象災害について
 - ✓ 片づけと防災に関する講話
- 体験型ワークショップ

「もしもライフラインが止まったら？」～自宅避難を想定した5つの体験～

 - トライ1 もしもに備える“ちょこっと電気”体験
 - トライ2 きみも気象予報士！アナウンス体験
 - トライ3 「トイレサバイバル！」
トイレを組み立ててみよう
 - トライ4 3日分のおうちごはんチャレンジ！
 - トライ5 「あつという間に水が!？」
VRで見る“もしも”の体験

- 展示コーナー
 - ✓ 便利&アイデア 防災グッズ
 - ✓ 写真で振り返る「西日本豪雨」



👉 ポイント

- 天気予報を通して、気候変動や将来起こりうる気象災害についてわかりやすく学ぶ
- 「お片づけできていないと災害時にどうなるか？」講話と体験VR動画により、自分ごととして考えるきっかけに

4. 気象災害を知り、災害時の行動を考える ～フェーズフリーな暮らしと防災大作戦～【OKAYAMAお片づけチームmomo(岡山県岡山市)】

ワークショップの様子

「いつも」も「もしも」も「みらい」も ～フェーズフリーな暮らしと防災大作戦～

■ 専門家からの話題提供

- ✓ 「気候変動時代を生きる“備える暮らし”」(気象予報士 中島 望 氏)



- ✓ 「片づけ上手は防災上手」地球となかよく生きる暮らしの備え (OKAYAMAお片づけチーム momo 代表 安藤雅子氏)



■ 体験型ワークショップ

- ✓ 自宅避難を想定した5つの体験・展示コーナー

トライ1



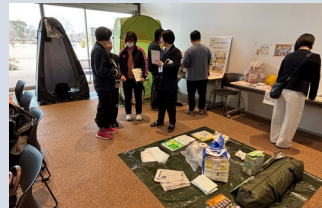
電気体験

トライ2



気象予報士体験

トライ3



トイレ組み立て体験

トライ4



献立チャレンジ体験

トライ5



VR体験(動画)

展示



展示(防災グッズ)

■ 質疑応答・まとめ

- ✓ 質問や感想



- ✓ 行動宣言(一例)



今後の防災共助体制構築に向けて

■ 気候変動への関心の高まり

- ワークショップ参加後のアンケートによれば、回答者の約8割が「気候変動への関心が高まった」と回答した。

■ 平時からの防災意識の高まり

- 自然災害に備えて、日頃から片づけをすることが、避難や命を守るために大事など、講話や体験を通して“自分ごと”として防災を考え、行動へつなげるきっかけとなった。

参加者の声

- 命を守るために日頃から片づけをしようという意識を親子で持つきっかけになった。
- お片づけは災害と関係があることを友人に伝えたい。



5. 地元高校生と考える防災アクション ～災害共助コミュニティのために～ 【NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)(静岡県牧之原市)】

基本情報

■団体の基本情報

- ・NPO法人国際ボランティア学生協会(以下、IVUSA)は、学生というニュートラルな立場を活かし、様々なセクターを繋ぎながら課題解決に取り組むとともに、活動を通して学びの場を学生に提供
- ・5つの分野(国際協力、環境保護、災害救援、子どもの教育支援、地域活性化)を軸に活動
- ・令和7年9月に発生した竜巻被害における牧之原市への災害支援を実施



過去の気象災害・気象災害リスク

- ・令和7年9月に台風15号による竜巻では、牧之原市内だけで53世帯116人が避難し、1,343棟の住宅被害が発生。
(IVUSAは災害発生後、7回にわたり災害支援を実施)
- ・広く開けた平野部のため、今後も竜巻や台風被害に備える必要があるとともに、大雨や洪水被害等にも備える必要がある。



実際の被害状況(中日新聞)

取組の内容

地元の高校生

竜巻・台風

防災共助体制構築

■背景・目的

- ・市は過去にIVUSAに災害支援を受けた経緯があり、災害時の共助体制(顔の見える関係)を強化したい。

⇒本事業を通じて、今後共助体制の一部を担うと考えられる地元高校生が、様々な地域での災害支援経験を持つIVUSAの大学生と防災について考える場をつくる。

IVUSAの大学生の助言を受けながら、地元高校生が自分でできる防災アクションを考慮することで、災害共助コミュニティ構築や市とIVUSAの連携強化へのきっかけとする。

■取組内容

- ①楽しく体験(※地震想定)
 - ✓ 防災すごろく「ソナ」を実施
- ②ヒント・新しい知識を得る
 - ✓ 竜巻被害と当時の状況について
 - ✓ 将来の気象災害や気候変動について
 - ✓ IVUSA所属の大学生より、災害ボランティアの関わり・経験を紹介
- ③自分にできるアクションを考える
 - ✓ グループディスカッション
 - ✓ わたしの防災アクション宣言をする



防災すごろく「ソナ」

地元の榛原高等学校グローバル部が遊びながら防災知識を身につけられるゲームとして考案。地震が起きる前後の行動をすごろく形式で体験するボードゲーム。

👉ポイント

防災の必要性はわかるけど具体的な行動のイメージまでは想像できないことも…

⇒ゲームを通じて楽しく防災を学びつつ、同世代との対話を通じて自分にできるアクションを具体的に想像できるように工夫

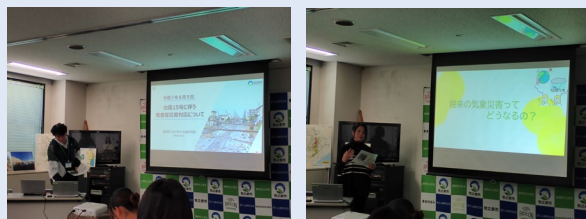
5. 地元高校生と考える防災アクション ～災害共助コミュニティのために～ 【NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)(静岡県牧之原市)】

ワークショップの様子

- 防災すごろく「ソナ」の実施
楽しく体験する！（地震を想定）



- 話題提供
考えるヒントや新しい知識を得る
- ✓ 竜巻被害と当時の状況について(牧之原市)
- ✓ 将来の気象災害や気候変動について(環境省)



- グループディスカッション・防災アクション宣言
自分にできるアクションを考える

- ✓ IVUSA所属の大学生より、災害ボランティアの関わり・経験を紹介
- ✓ 自分にできる防災についてディスカッション
- ✓ これから自分がやろうと思ったことを、わたしの防災アクション宣言として共有



<防災アクション宣言の例>

わたしの防災アクション宣言！

防災バックをつくる
(食料、水、薬、生理用品など)

わたしの防災アクション宣言！

家族がバラバラの時に、どう避難するか考える

わたしの防災アクション宣言！

避難はとにかく早いうちからにする

今後の防災共助体制構築に向けて

- 災害共助コミュニティにつなげるきっかけに
- ・楽しみながら防災を学ぶ仕掛けが有効
- ・地元高校生の防災知識と防災意識が向上
- ・市とIVUSAの連携強化の契機

牧之原市・IVUSAからの声
・一般の人の意見を聞くと刺激になる。(牧之原市)
・自分の備えが十分でないことに気づいた。(IVUSA)

参加者(地元高校生)の声
・被災した人やボランティアなど、様々な視点で考えることが大切だと思った。
・深いところまで考えるよい機会になった。また参加したい。

